

第5回研究推進体「ストレス」フォーラム

ストレスを基盤とする病態の克服を目指して

日時:2012年5月1日(火) 17:30 – 19:30

場所:山口大学医学部総合研究棟8階多目的室

司会:本田 健(分子薬理学)、木村和博(眼科学)

1. 心筋小胞体 Ca^{2+} 輸送を制御するアプタマーの開発
田中貴絵(分子薬理学)
2. 静注で行う心臓選択性、心不全特異的な遺伝子治療法の開発
池田安宏(器官病態内科学)
3. ハンチントン病関連蛋白質(HAP1)が形成する神経細胞質
封入体“stigmoid body”の細胞内ダイナミクス
藤永竜太郎(機能神経解剖学)
4. 角膜疾患とコラーゲン組織構造変化
森重直行(眼科学)

細胞は、内外の環境変化が生じて、タンパク質や脂質などの構成成分やイオン環境の恒常性を保つための様々な維持機構を持っています。その機構を凌駕するストレスの負荷、或いはその機構の破綻は様々な疾患を導くことが明らかになってきています。今回、心臓、神経、角膜などでの恒常性維持機構の破綻に基づく疾患における病態解明や恒常性を維持するための治療に向けた研究を紹介し、議論します。

興味のある研究者、大学院生、学部学生他、是非ご参加ください。

主催:山口大学研究推進体「ストレス応答と関連した難治性疾患のための戦略」

連絡先 分子薬理学(2217)